

ネットワークを利用した授業支援にむけて

情報処理センター 所長 湊 敏

最近、コンピュータを利用した授業支援ということが情報関係の集まりでよく取り上げられるようになってきた。この授業支援の意味は、情報関連機器を用いて、これまでよりわかり易い授業・学生が興味を持つことができる授業を行うことや、学生に授業の予習や復習の機会を与えようということである。授業支援ということにおいては、残念ながら本学は他大学に比べると10年遅れていると言わざるを得ない。情報検索や語学のCALLシステム等を通してコンピュータを教育に役立てている授業もあるが、情報関連機器はこれまで主としてコンピュータの操作法や各科目におけるコンピュータの利用方法にしか利用されてこなかった。ところが、他大学においては種々の教材の提示や、e-ラーニングによる予習・復習の機会を与えるサービスがネットワークを利用して行われるようになってきている。

昨年度の学内LANの更新では、プロジェクタの設置してある教室には情報コンセントを設置してネットワークが利用できるようになった。すなわち、プロジェクタの設置してある教室では、ネットワーク上にある種々の教材を授業中に提示することが可能になった。一部の教室ではあるがネットワークを利用した授業支援は、十分ではないがハードウェア面では準備は整ってきたといえる。大きな問題は、ソフトウェア面である教材をどのように集めるかということである。

情報処理センターでは今年度一部の先生方に協力していただきホームページを利用した授業支援システムのテスト運用を開始した。現在のところ、電子教材としては、授業中に配布されたレジメ、授業ごとのまとめ、授業ごとに小問、昨年度の試験問題、教員から学生への連絡等である。これらの教材は、学内のネットワークを利用すれば誰でも見ることができるし、プリントすることも可能になっている。授業支援システムに載せられたまとめや小問は学生が復習するときに役立つと思われる。また、昨年度の試験問題は、学生にとって授業の要点が分かり、試験勉強だけでなく、授業を受ける上でも役立つと思われる。レジメに関しては、情報処理センターのプリンタを利用すればカラー印刷が可能になるため、カラーの写真や図版が入ったレジメの配布が可能になる。現在のところ学生への周知徹底が行われていないため、授業支援システムの存在を知らない学生が多いが、今後宣伝活動を積極的に行っていく予定である。

情報処理センターとしては、授業支援システムを正式に運用するためにはより多くの先生方の協力が必要になる。このため、多くの先生方からご意見・ご希望が情報処理センターにいただけることを期待している。